〔卓子宴儀〕卓子宴ノコトタルヤ、シツポコト稱シテ調味ノ名トスレドモ、シツポコト云コトハ、卓子ノコトニテ、既ニ方卓子ニ四下裏坐シテ、以一器相俱ニ餔啜スルコトナリ、然レドモ其濫觴ヲ不知、嘗テ三禮ニモ不見、其餘ノ載籍ニモ不見、何レノ頃ヨリカ支那ニ行ハルヽ宴式ナリ、近世大清人長崎ニ來リ興行スルニ慣テ、和邦都鄙此彼稍流布セリ、サレバシツポコハ非唐音、尤和邦ノ非音訓、故ニ無正字、疑是蠻語ナランカ、卓子宴ハ個々饌具ニ非ズシテ、一個ノ方卓子ノ上頭ニ設ル器ヲ相俱シ餔啜スル者ナリ、和邦宴會毎ニ引盃ト云モノヲ設各前、揚盃互ニ遜讓ノ禮話アリ、次序端正ニシテ勸酒スルコト、大率三タビ順行シテ、其禮式ヲ整フコト、宴會ノ規則ナリ、畢テ別ニ一個ノ盃ヲ設テ、室中ノ列客相互ニ獻酬置酒ス、且茶事ノ宴式ト云モノ、一個ノ以茶碗、室中ノ列客相互ニ喫茶、以爲一個ノ盃ニテ置酒スルト、一個ノ以茶碗喫茶コト、酒茶トモニ一器合啜スルコトハ、曾テ卓子宴ノ意義ニ通亨一般ナリ、蓋其由來ヲ未ダ詳ニセズト云ドモ、說話投機親友ノ交接ナリ、〇中略

明和八年歲次辛卯三月吉旦　張藩徽臣雲萊太田資玫道珪、滌毫於整廣齋、

〔橘庵漫筆ニ編ニ〕食卓とは食物を乘する机の名なり、食卓臺といへるは、清土の洒落を眞似る人には似合はぬ片言なり、扨食卓或は卓子などゝいひて、食物の名と思へるは彌拙しと或人は云へれど、これも入ほがとおぼゆ、夫本朝の風に御膳上り申と饗膳配膳などゝ云、すべて膳を稱して俗間食物に通ず、故食卓召されと計り云ても、御膳召上られひと云樣成義と同じ、扨食卓畿內に流布すること、京師祇園の下河原に佐野屋嘉兵衞と云ふもの、享保年中に長崎より上京して、初て大碗十二の食卓を料理し弘めける、これ京師浪花にての食卓料理店の初とかや、嘉兵衞娘はんといえる老婆、近頃まで存命せり、則今の佐野屋の祖なり、大坂にて彼是食卓料理數多ひろめたれども、野堂町の貴得齋ほど久敷つゞきたるはなし、